

令和4年度 全国学力学習状況調査結果について

(令和4年4月19日実施 対象：6年生)

宍喰小学校

1 学力調査問題から

(1) 国語

調査は、①言葉の特徴や使い方に関する事項、②我が国の言語文化に関する事項、③話すこと・聞くこと、④書くこと、⑤読むことの内容についてでした。いずれの内容についても全国の正答率を上回りました。

定着が見られる内容○ 課題と考えられる内容▲

- 話し言葉と書き言葉との違いを理解する。
- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。
- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像する。
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。
- ▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。
- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

(2) 算数

調査は、①数と計算、②図形、③測定、④変化と関係、⑤データの活用の5領域についてでした。②図形、③変化と関係については全国の正答率をやや上回りましたが、①数と計算、データの活用については全国の正答率を下回っています。データの活用については、特に今後の課題と言えます。

定着が見られる内容○ 課題と考えられる内容▲

- 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる。
- 加法と減法の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。
- 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。
- ▲示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。
- ▲示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。
- ▲目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。
- ▲図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。

(3) 理科

調査は、①エネルギー、②粒子、③生命、④地球のそれぞれを柱とする領域についてでした。④地球を柱とする領域は全国の正答率を上回りましたが、①エネルギー、②粒子、③生命については今後の課題です。

- 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善をし、自分の考えを持ち、その内容を記述できる。
- 自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。
- 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。
- 水は蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。
- ▲観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。
- ▲日光は直進することを理解している。
- ▲問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している。
- ▲実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述できる。

2 今後の取組

(1) 国語

- ア 文章読解や文章記述の際、「なぜそう考えたのか、そう書いたのか」の理由を個々に説明（表現）する機会を設定する。
- イ 「学力向上学習プリント」をチャレンジタイムや家庭学習等で活用し、読解力向上を図る。
- ウ 作文や日記等、日常場面で既習漢字を使う指導を徹底する。
- エ 「わくわく漢字」による漢字力の向上に取り組む。
- オ A I教材を活用し、個に応じた指導を行う。

(2) 算数

- ア 定期的な計算・知識テストや「わくわくちえちえ算数」を活用し、つまづきを把握し、個別指導等を行う。
- イ 「割合」について各学年の学習を系統的にまとめて定義や活用方法を復習する機会を設ける。
- ウ 「学力向上確認プリント」を活用し、「割合」の問題を解き、必要に応じて個別指導を行う。
- エ A I教材を活用し、個に応じた指導を行う。

(3) 理科

- ア 「学力向上学習プリント」をチャレンジタイムや家庭学習等で活用し、基礎的な知識・技能、思考力や表現力を向上させる。
- イ 話し合い活動やICTの活用等、観察・実験の結果、考察の時間をさらに充実させ、思考力、判断力や表現力の育成を図る。
- ウ A I教材を活用し、個に応じた指導を行う。